

○議員（3番 入江 有紀君） 元に戻りますが、企業誘致のことなんですけど、5年間成功して  
いないんですけど、これからも予算は取っていくつもりですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど言いましたように、700万という内訳を言いましたよね。だから、その700万の名前を変えましょう。表の、ならば、企業誘致ではなくですね。私ども、今の既存の企業なんかも雇用増大に向かってやっていけるところの事業費だというふうに、私どもはそういうふうに理解を、企業誘致というのを、そう理解しておりましたので、こういうふうな言葉を使いましたけど、入江議員さんの感覚では、企業誘致は外から呼び込むのだけが企業誘致だという感覚でおられるならば、そこが紛らわしゅうございますので、この表題の文言を変えたいと思います。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） わかりました。じゃあ、そうしてください。誤解しやすいので。  
以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩とします。午後は、1時から再開いたします。

午前11時48分休憩

午後0時58分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） 清風会の淵上清であります。

質問に入ります前に、去る11月23日、白嶽登山後行方不明になりました庄司惣八氏の捜索につきまして、自衛隊の災害派遣をはじめ、迅速なる対応をいただきました市当局、消防本部、対馬消防団、南警察署をはじめ、懸命なる捜索に御参加をいただきました地域区民、協力者の皆様に対しまして、御親族、関係者に代わりまして心から感謝申し上げます。残念ながら、このような皆様の善意の御協力にもかかわらず、いまだ発見には至っておりません。一刻も早い解決を熱望するばかりでございます。

さて、今議会は、議会初日の市長の辞任発言で大変混乱いたしました。市長、何かお忘れじゃないでしょうか。あなたは私の質問に対し、答弁に窮して職を辞して責任を取りますと発言されました。質問を發しました私のほうがびっくりいたしました。そして、その討論は終わらざるを得ませんでした。私は、あの発言は、市長が常々その職を辞す覚悟で今の重責を担っていること

をよく語っておられましたから、回答に窮してその一端を口走ってしまったというふうに解しております。質問者の私に対する答弁の中の表現の一部です。回答を受けた私は全く気にしておりませんので、どうぞ御休心ください。そして、その折の質問のごみ問題に対しても善処されるようでございますから、もうこの件は終結しました。

市長、今後発言には十分、いや、十二分に留意されまして、二度とこのようなことがないように猛省を促します。そして、本来の質問に入らせていただきます。今までどおり、対馬市の将来に向けて、切磋琢磨して激論を戦わしましょう。

さて、かねて通告しておりました対馬市の重要な政策課題の一つであります国際交流についてお尋ねいたします。

「始めて一海を渡る、千余里、対馬の国に至る」と、このように始まります中国の史書三国志の（俗称）「魏志」倭人伝には、対馬の当時のありようが記述されておりました。そして、さらに「良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴す」とあります。古代から、対馬島民は貿易によって島の経済を支えたことは皆さん御承知のとおりであります。以来対馬は、江戸時代に象徴されますように、平和な時代には銀の輸出や朝鮮人参の輸入などによりまして、豊かな島の生活が営まれ、反面、一たび国と国が険悪な関係になりますと、この島は防人の島となり、防衛の最前線基地化して厳しい生活を強いられてきました。このような時代を繰り返して現在でございます。そして今、まさに小さいさかいではありますが、平和な時代です。私たちはこの歴史に学んで、対馬の生きるべき道を探らなければならないと思います。

そこで、対馬市の目指している国際交流のあり方と申しますか、目標はどこにあるのかについて、市長の考えを大きく2点に分けてお伺いいたします。

まず1点目です。

対馬市は、昨年7月、中国上海市崇明県との国際親善交流の姉妹縁組みの締結をいたしました。その後、対馬市には中国からの国際交流員が市役所に常駐しております。が、今日までの交流の実績は私たちには何の情報も届いてまいりません。どのような交流があったのか、あるいは今後どのように交流が進もうとしているかについてもわかりません。この際、今後の展望について、お知らせできる範囲で結構ですからお聞かせください。これは簡略に概要だけで結構です。

2点目です。

2点目は、韓国との国際交流についてです。韓国との交流につきましては、対馬市誕生前の六町時代、各町は競いあって韓国との親善交流に力してまいりました。合併後、対馬市民の熱心な活動と社会情勢の変化が相まって、今、その努力が実り、年間18万人の韓国人旅行者が対馬を訪れるまでになりました。大変、喜ばしいことであります。今後、どのように親善交流が進展していくのか、非常に楽しみな昨今であります。

そこでお尋ねしたいのは、対馬市はどのような親善交流を目指しているのかをお聞かせください。と申しますのは、先日の全員協議会の折に、私は同様の質問をしましたが、市長は今の観光客来島者の倍か40万ぐらいはどうですかねというぐらいの、曖昧な回答でありました。

対馬市の重要施策の一つである日韓の親善交流事業に目標がなければ、あるいはゴールも見えなければ、受入れ体制の整備事業も計画もできないし、市民に公費投入の意味も理解できないものと考えます。まして、市民の代表である議会においても、市長の考えがわからない、対馬市としての目標もない状態では、国際交流に関する議案の審議すらできないわけです。この際、早急に明確な目標を定めて、年次的、計画的に環境整備や組織体制の確立等の事業展開を図らねばならない、そういう時期にきていると思うのですが、市長が温められておられる日韓交流の構想についてお聞かせください。

御答弁をいただいた後、質問席から再質問をさせていただきます。まずは、要点のみで結構です。簡略に御回答ください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 渟上議員の質問に答えさせていただきます。

国際交流、まず第1点目は中国上海市崇明県との昨年7月に友好関係の覚書の協定を結んだところでございますが、これらについてその後何も見えないがというふうな御質問でございます。

昨年7月、締結したわけですが、その前後に双方、崇明県、対馬市双方が交流計画というものを、提案をお互いがする中で進もうとしておったんですけども、この尖閣諸島の問題が勃発することによりまして、政府間のもとより、日中の民間交流にまで影響が及んだことによりまして、現在、私ども、手始めに青少年交流から開始をしようかという話まで進んでおりましたけども、これらについて、今中断している状態でございます。中国のほうが、初期の段階においては外国との交流に中央政府の許可というものがどうしても必要というふうな政治形態をとられている関係上、今動きが取れない状態になっております。尖閣問題が一段落する中で、双方でこの交流体制、また計画の詰めを、再協議をしていきたいというふうに思っております。（「簡単にお願いしますよ、時間がない」と呼ぶ者あり）

韓国との交流の件でございますが、対馬市の目指すべき交流の目標ということでございますが、これにつきましては、私、決算委員会で2倍、3倍ぐらいが限度ですかねというふうな話で、自分の考えをそのとき言葉で出しております。担当の部のほうにその方向性でいいですか、計画づくりはできてるんだろうかという話で聞きますと、24年度から28年度のテーマということで、体験型の観光まちづくりというキャッチフレーズの中、数値目標としてトリプル30ということで、観光客の実数、そして宿泊実数、観光消費額、全てを30%をこの期間にアップしようということ、目標に掲げて取り組みをしてきたというふうに報告がっております。

そういう中、平成22年度をベースということになった場合、外国人観光客が当時6万1,000人、こちらに来島されておりましたけども、その3割ということになりますと1万八千数百人ということになりまして、今の現状っていうのが明らかにそれを、予想を上回るスピードで動いているというふうなことで、目標数値はそこに設定してあったんですけども、そこを越えてしまっているというふうなことで、計画が追い付かない状況が今現在ございます。

さらにこの目標、日韓の交流の今後の方向性でございますが、やはり観光客の実数もさることながら、リピーターを増やす努力をしていくことが必要だというふうに、韓国の方たちのほうからも言われております。宿泊施設がうんぬんではなくて、この島のもてなし部分というのをアップしながら、リピーターを増やすことによって、そのお客の数といたしますか、それを確保していくことに目標変えをしたほうがいいんじゃないかというふうなお話しも聞いております。確かに、リピーターじゃないと、なかなか宿泊の施設に、皆さんが躊躇されているということも、先が見えないということにもつながっていくんだろうと思っております。そういう意味において、そのような方向性でしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） 中国との関係は、おおよそそういうことだろうというのは予想はつくんですが。ちょっと私が理解できん点があったんで、私の意見だけですけど。

市長、この姉妹提携にあたっては、議会との相談といたしますか、その辺を確かに受けたんですが、そのときはもう、市長は向こうと姉妹提携の段取りをしっかりと決めてきておられまして、議会のほうでうんぬんというような状況じゃなくて、いつものことなんですけど、市長の場合は相談しますというときには、ほとんど中身は報告なんです。相談というのは、物事をつくる前に、固める前に、こういう方向を考えているがどうでしょうかというのが相談であって、決めてこられたものは報告というんです。だから市長はいつも相談したとおっしゃいますけど、それは報告であると。相談は私が先ほど言ったことであるんです。その辺をよく考えて行動していただきたいと思うんです。というのは、市長は、いつか言いましたね、市長の任期は4年なんです。4年を越えた先の、いわゆる姉妹提携ですから、こう聞きますとこれは、議会の議決事項ではないそうですけども、市長が辞めた後も契約がずっと、姉妹提携続くわけですから、やはり話をされる前には議会とよく合議をされて進めると、1人で市長が決めてきたことというふうになって、またいろいろ言われます。今後、気を付けていただきたいということが1点です。

韓国との交流、私が申したいのは、もうやがて交流が、交流的な韓国と対馬の間に船が通うようになってから、やがて15年ですか。それで今、まさに市長がおっしゃったように想像をはるかに超える観光客数が入っているんです。市のほうの計画が後追いなんです。だから、今まさに大目標をしっかりと定める時期にあるというふうに私は考えます。と申しますのが、先般も申し

ましたように、県の、対馬振興局の目標は100万を目指したいとおっしゃってるんです。そして、ほかの団体もいろいろな活動をしていただいております。

ここにも資料があるんですが、日韓の議員連盟は今まで対馬市が取り組んできた朝鮮通信使を世界遺産登録に協力して、日韓議員連盟でそれに向けて協力し合おうという共同声明までしてる。そういう対馬の果たす役割が日韓の中でも大きくなるし、対馬市にとっても、大きな絶好のチャンス到来なんです。ここで対馬市が30%とか、なんかあやふやな目標じゃなくて、あやふやじゃない、失礼しました。あした、あさっての目標じゃなくて、将来はこんな島を目指すんだという大目標をしっかりと定めとかなと、いろいろな事業が組み立てにくいじゃないですか。

まさに、この間の花火の問題にしても、なんか線香花火的に見えるわけで、大きな目標があれば、それに向かっての一つの事業として捉え方もできますし。だから、そういう仕組みを、今、私はつくるべきときであるというふうに考えるんですが、そのためには大きな目標を掲げて、決めて、そして今の組織体制もばらばら。この間の朝鮮通信使の中止につきましても、市長は対馬市の方針ですと申しました。あれは苦しかったですよね。朝鮮通信使の行列振興会ですか、アリラン祭のほうが決めてしまって、仕方なく市長はそう言わざるを得なかったと思うんです。そうじゃなくて、一つの団体がそれぞれに勝手じゃなくて、それぞれの目標を持ってしよると、市の目標とばらばらになってしまいます。大きな組織をつかって、一つの団体がその目標に向かって自分たちの役割を果たしていく。そしてその集合体が対馬市の将来に大きく貢献できる。そういう組織をつくる時期だと思うんです。その辺について、市長どうでしょうか。時期、そういう時期が来とると思うかどうか。

○議長（作元 義文君） 市長。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられたのは、外の組織のことでございますか。内部の組織、庁舎内部のことですか。組織とおっしゃられたのは。

○議員（5番 淵上 清君） 対馬市としての、全体としての対馬の目指す方向、外も内もない。全部でつくる。

○市長（財部 能成君） 今、先ほどトリプル30という話をさせていただきました。24年度から28年度の期間を定めて組み立てたわけですが、これが実態とは全く合わないというか、それをはるかに越えている中で、計画と実態に齟齬が出て、動きが取れなくなるではないかと。そういう方向性をきちんと出す必要があるんじゃないかというふうに、今、淵上議員のほうがおっしゃられました。まさにこの第2期の観光振興計画、これを早目に組み立て直す必要があるというふうに思ってます。28年まではトリプル30で、先ほど言いました、約6万人、今度は1.8の7.8万人程度でいいんだみたいな、いいっていう意味か、そういう予想できたんでしょうけども、それをはるかに上回っておりますので、そのあたりの計画見直し、早期の策定にまず

もって着手する中で、今おっしゃられたように対馬と韓国との関係をどのように、ある意味そこで組み立てていくのかということにもつながっていくはずですので、そのあたりにまずもって着手をする中で、先ほどおっしゃられた、そうすると内外の組織的なものをどのように組み立てるかということも論議されてくると思いますので、それについての見直し作業には、来年度を待たずに入りたいなと思います。

○議長（作元 義文君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） いや、嬉しゅうございます。今、絶好のそれを組み立てる時期だと思うんです。そして、それを各団体も、全島も、あるいは全国にも、韓国にも、対馬市はこんな目標を持って取り組んでいくんだというのをアピールする必要があると思うんです。

市長もちょっと頭を抱えたこともあった。なんかきょう、突然企業誘致という言葉が変わったようですが、今まで企業誘致と言ってましたね、三宇田浜の。あれにしても、私は対馬市の、三宇田浜ですかね、比田勝のは。あの広場の。あれにしても、市の目指す方向が、どのような方向を向いておるか分からんような状況では、業者も思い切って投資もしませんし、だから対馬市はこんなに大きなものを目指して一生懸命やるんだっていうアピールを全国にしましょうよ。そうすると、対馬市はやるんだということになれば、やっぱり投資するほうも勇気が、勇気がいるんですよ、投資するということは。対馬がどっち向いとるかわからんでは誰も企業は来ませんよ。

だから、そういう目標をしっかりとみんなで定めて、そして大きくアピールして、そして企業誘致なり、あるいはいろいろな施設整備にしても、目標がなくて、例えば受け入れの玄関口であるターミナルにしても、何人を目標にした施設をつくるのか、つぎはぎの状況がずっと今きとる。だから、目標を立てれば、まずはこのぐらいのものはつくるところというときには、次の計画がそのまま進む、建物そのままが利用できて、ついでいけばできるような仕組みも考えられるわけですし、だから目標を立ててないと整備計画もできないです。だから、そういうこともありますんで、ぜひ、議会も巻き込んでやりましょうや。そして、みんながびっくりするような観光の町、島にしましょうや。どうですか、燃えましょうや。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど言いましたように、第3期を策定する中で市民の皆様にもじっくり考えていただかないといけない問題だと思っております。

先ほど言いますように、リピーターをどうふやすかということには、市がどう言ってもこれは動かない部分もあります。市民みんながそういう気持ちになっていただく中で、もてなしは始まると思っておりますので、この計画の策定見直しということが、策定作業自体がとても重要になってくるんだろうと思います。

また、そこで皆様方がどのように作り込んでいかれるかということもすごく大事だし、当然、

市の財政との兼ね合いというの考えながらも、そういう一面もあろうかと思えます。そういうところで計画見直しに着手できればと思います。

○議長（作元 義文君） 5番、瀧上清君。

○議員（5番 瀧上 清君） 市長、政治家の言葉みたいに、できればと思いますよじゃなくて、できるようにしましょうや。

それから、やはり今、観光客の、対馬に来る目標だけを私は言ってるつもりじゃないんです。やはり、対馬は韓国に一番近い島ですから、目的は、最終目的は貿易だと思うんです。今は非常にまだ、円高から円安になったとはいえ、まだ貿易までは非常に厳しい状況がありますが、やがてその時代が来ると思うんです。その辺にも視点を置いて、今から準備をしとかんと、そういう時期が来て慌てて準備を始めても間に合わないんです。

例えば、どなたかの質問の中にもありましたが、対馬の木材です。韓国に向けてという話もあります。今のままで、あの木材が韓国に輸出できるとお思いでしょうか。私は、ある方に、韓国でそういう営業している方と話しました。対馬の木材です。あれはだめですよ。韓国で木材を扱う人が対馬の立ってる木を見て頭から否定するんです。それは、間伐も枝打ちもできていない、節だらけの痩せ細ったヒノキや杉を見ているからです。やはり、そういう貿易の時期に向けて、もう今から、遅いかもしらんけども、しっかりとそういう枝打ち、間伐を促進してやる、そういうことも必要だと思うんです。

そのためには、林業家の皆さんに頑張りをなさいといっても、とてもじゃないですから。だから今度は、制度資金の上に、対馬市からもいささかの助成金なりを上乗せして、林業者が手出しをせんでも、枝打ち、間伐ができる、そういう仕組みをしましょうや。それは、40年、50年前に行政も継続ですから。あなたたちの先輩は、私も行政出身ですが、私の若い時代に林業家を回って、造林をずっと促進して回ったんです。それが今あんな形で残ってるのは、やっぱり行政の責任もあるんですから、やっぱり何か夢を壊さないような、行政のありようでもなくてはならんという、いわゆる行政にも今のままではいけないという責任感があってほしいという意味もあって、例えば林業に、例えば。今からその準備をしとかんとできないという思いを私は強くしておるんです。

そういう意味で、目標は貿易。そういうものに目標をしっかり定めた中で、いろいろな施策の展開をしていく必要があるという思いを強くしてるんです。その辺も含めて。先ほどは第2次と言われたけど、次、さっき3次とか言われたが、2次でも3次でもいい、しっかりした計画を、市民も巻き込んで、そして専門家も含めてもいいじゃないですか。しっかりした目標を定める。そして、事業展開をどういうふうに組み立てていく。そういうことを、ぜひ強力に進めてほしいと思います。

そして、今の問題なんですけど、今観光客が来ておられますが、伺いますと、対馬に旅行するというんで、楽しみにして対馬に来られて、帰るときには持ってきた財布の中身は半分以上は残して帰っておられるそうです。使うところがないそうです。使うものがないそうです。だからもったいない話です。対馬の経済にとっても大きな課題ですから。韓国の方が何を求めておられるかとか、どういうものを今度仕掛けていくかと、そういう実質的なことも、ひとつ韓国の、何ていうんですか、エージェントあたりともいろいろ話をしながら、何かつくっていきましょうや。せっかく18万、やがて20万、30万となっていくんでしょうが。持ってきたお金を持って帰ってもらっちゃもったいないじゃないですか。何のためにこの国際交流の中で観光客誘致をしてきたか。全く意味がない。それが意味のあって、市民の皆さんがもっともっと力を入れてやれる仕組みをみんなで考えてつくっていきましょうや。そのことを提言したいと思います。

それと、貿易というのは、非常に、国際化の問題ですから、目標をしっかり定めるというのは、私は今貿易をどうせこうせじゃなくて、目的をしっかりその辺に持っとかんと、そういう時代が来たときに間に合わんよということを言いたいんです。

そしてもう一点は、今、日本と韓国、大変、何というんですか。大きな争いにはなっておりませんが、内面的にはあんまりいい関係にはないような状況もありますね。そういうときに、対馬市の、いわゆる対馬自慢の果たす役割があるんじゃないかと思うんです。それがまさに、市長が今回提案しておられる花火の問題であったり、花火での交流ですか、そういうことについてもしっかり組み立てをしていかにやいかんと思います。しかしそれが単発的には、いわゆる俗世間でいう線香花火っていうんです。だから、そういうものもしっかり計画を打ち立てて、継続的にやっていかな、なんの意味もない。そういうことを私は思うし、私たちの対馬の先人たちが、秀吉の朝鮮出兵の後に、和平の交渉に対馬の役人たちは我が身を投げ捨てて、朝鮮の国に行って、帰ってこなかった人が随分おるじゃないですか。わが身を捨てるときには、そういうときに役人は捨てるんです。

事のついでに言いますが、市長、我が身を捨てるときは対馬市のためになるときに捨ててください。先の発言でも今あなたが辞めても何の、これっぽっちの対馬に対してのメリットはありませんから。混乱するばかりですから。冗談ではない。しっかり役割を果たして、皆さんがいい市長を選んでよかったなと思われるように頑張りましょうや。議会も一緒に取り組んで、みんなから喜ばれる対馬市で、市政の運営に励んでほしいと思います。どうですか、その辺について。力強く発言してください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられる中で、日韓関係の修復に向けた対馬としての役割というお話しがございました。永遠に、私どもこの対馬というのは、場所は当然変わらないわけでご



ございますから、そういう役回りになるんだらうというふうにも感じました。先人たちが苦しんできた、いろんな日韓のはざまと申しますか、という中でこのことを想像したりもする時期がありました。恐らく、この日韓関係につきましては、私どもの今の苦しみと申しますか、悩みというのは、先人たちから見ればさほどもないことだよというふうにも言っているのかもしれないなあと思う部分もあります。こういう場所の宿命、またここにあるがゆえの楽しみと申しますか、そういうふうにも物事を捉えて、これからは当たっていきたくて思っております。

○議長（作元 義文君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） 私は、特にこの質問をしたのは、くどいようですけども、今まさにその大きな目標を定めて、そしてみんなで、島民、知恵者、議会も、おひな壇に座っている皆さん方も含めて、一緒になって大きな計画を目指して、その素案をつくるべきだと、そういう時期なんだということを言いたいです。市長もそのほうに向けてやっていただくそうですから、ぜひ、新年度の予算に向けても、その辺も何か姿を見せてください。

そして、何か最後のほうに申しましたが、対馬の果たす役割。日本の国の中で国境にあるから助けてください的な考えじゃなくて、国境の役割をよくぞ対馬は果たしてくれたと。そういう中でこそ、対馬に大きな国の予算が入ってくるんですよ。助けてくださいよじゃなくて、こんなに頑張っているんだ、どうだと言えりような、どうどうと外に向けて言えりような対馬市をつくり上げましようや。何か夢がでっかいですか。

そして、もう一つ夢を言いますと、こんな夢ばかり言うなって言われるかもしれないけど。先々は、あの鎖国時代に対馬藩は、韓国に倭館という施設まで構えて、鎖国時代にしっかりした交流をしているんですよ。どんな時代でも対馬の果たす役割は、そういう日本の中にあつての対馬の役割はあると思うんです。だからその辺をしっかりやっていくうちに、何か韓半島と日本とのいさかひがあつたときには、あるいはいい話があるときには、対馬で日韓会談があつたり、いろいろな、そういう首脳会談ができるような、対馬でやつたらいい話になるよと言われるような島を目指したらどうですか。

もっと夢を見たら、金石城に、あそこを復元して、そういう日韓のトップがあそこで手を握り合つていろいろ話できるような、そういう雰囲気の島にしたらどうかと。そんな夢も見ながら、急にはできませんよ。だから、一つ一つ、そういう夢に向かつて、対馬市は進むべきだと私は思うんです。どうですか。私よりも市長のほうがその辺は詳しいと思うし、夢もでっかいと思うが。

あと4分です。あと時間全部使つていいですから、夢述べてください。

○議長（作元 義文君） 市長。

○市長（財部 能成君） 先日、釜山にあります対馬事務所の開設10周年の祝賀パーティーがありました。そのときに、宿泊したホテルの場所は、昔の草梁倭館の中のホテルです。そして、その

ホテルを出ますと、お隣のところが旧日本の領事館だったと言われているところです。その壁っていいですか、フェンスに対馬の草梁倭館がこういう配置であったんだというふうな地図が貼ってありました。さらに、その階段をおりて、下におりますと、そのまた案内がありました。倭館の案内です。韓国の釜山市のほうも草梁倭館というものを明確に、釜山の中に明示をし始めたといいますか、そういう動きが出てきたというのを大変うれしく思っております。そのとき、8万6,000坪ここにあったんだというふうな書き方がされておりました。それが、数字はともかくとしまして、その時代で対馬がこの海を渡り、自分たちの島を生かすために汗を流してあったんだなというふうに、改めて感じた次第です。

ちなみに、日韓首脳会談のお話しがございました。夢を語れということでございますので、私が何も世の中を知らないときの話でございますが、私は南北の首脳会談、和平会談がこの対馬の地であれば、オスロ合意みたいな形で対馬合意ということで、永遠に韓半島に平和をもたらした場所ということが、名前が世界史に残るがなということは、以前、夢を持ったことがございます。以上です。

○議長（作元 義文君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） 4分使っていいと言うと、俺の時間なくなったなと思って。

思いは一緒のようですね。先ほど、雇用拡大の問題、いわゆる企業誘致による雇用の拡大もあるでしょうが、この韓国観光客の島内に来られる数の増大によって、随分の方が働く場所ができましたよ。これもある意味企業誘致なんです。だから、一つの会社を誘致するというような、規模の小さい企業誘致をうんぬんじゃなくて、大きなスケールの企業誘致をしながら、やっていきましょうや。

そして、なくなったな。最後にしっかり市長の考えもわかりましたし、ひな壇におられる方も、そういう思いで頑張りましょう。

そして、最後に苦言を一つ。市長は、一生懸命頑張りすぎる。対馬のことばかり考えちゃだめなんです。国際交流においては、相手の立場をよく理解をして、そして言葉を発しなければ。この間みたいな、朝鮮通信使の行列をぼんと向こうに言い置くような、長い間かけてつないできた絆を一瞬にして断ち切るような、あんなことはだめですよ。だから、やっぱり相手の立場を尊重しながら、朝鮮通信使とは、「信（よしみ）を通わす使い」と書いてあるんです、信（よしみ）を通わす使いですよ。この間の行為は信（よしみ）を断ち切る使いでございました。そんなことのないように、しっかりと対馬人のあるべき道をわきまえながら、この大きな島づくりに向けて、議会とともに一緒にがんばりましょう。

質問を終わります。

○議長（作元 義文君） これで淵上清君の質問は終わりました。